

2019（令和元）年度全道高等学校新聞コンクール実施要領

1 コンクール部門

○写植部門

○手書き・ワープロ部門

ただし応募は写植、手書き・ワープロのどちらかの部門に限る。

2 応募資格・方法

(1) 2018年（平成30年）7月27日（金）より2019年（令和元年）7月25日（木）の間に発行された学校新聞。

(2) 写植部門に応募する場合は、(1)の期間に発行された新聞の中から1号を応募する。また(1)の期間に発行された写植新聞3号以内を参考新聞として提出する。

(3) 手書き・ワープロ部門に応募する場合は、(1)の期間に発行された手書き・ワープロ新聞のすべてを提出する。ただし、21号以上を発行している場合は任意の20号を審査対象の応募新聞とし、残りのすべてを参考新聞として、それぞれ別に発行順に綴じて提出する。(1)の期間に発行された写植新聞は、参考新聞として提出する。

(4) 応募新聞の部数は写植、手書き・ワープロの両部門とも20部とする。ただし、手書き・ワープロ部門の応募はコピーでもよい。また参考新聞も各号20部とする。

送付する際には、応募新聞と参考新聞を1セットにし、校名を明記した大判封筒に1セットずつ入れ、20セットをコンクール担当校に送る。

(5) 応募新聞には必ず右上に、写植部門は「写」、手書き・ワープロ部門は「手」と赤インクで記入する。参考新聞には、同様に「参」と記入する。

(6) 写植部門の新聞は1部ずつタブロイド2つ折りの大きさにし、題字が表に来るようにする。

(7) 「**コンクール参加票**」「**活動概況調査票**」を北広島西高校のHPからダウンロードし、必要事項を記入し新聞に添えて提出する。参加票、調査票ともに提出は1部。新聞用大判封筒とは別にする。

ダウンロード先 <http://www.kitahiroshimanishi.hokkaido-c.ed.jp/>

(8) 応募新聞は返却しない。

(9) 縮刷版掲載用新聞については、「縮刷版用」と明記した校名入り大判封筒に1部を入れ提出する。なお、その際、下記の点に留意する。

ア 写植部門は、応募新聞1部を提出する。可能であれば、A4判の版下1部もしくはPDFデータを用意し、添付する。

イ 手書き・ワープロ部門は、応募新聞のうち**最大6面分**をA4判に縮小し、1部提出する。可能であればPDF形式の出力データを添付する。ただし、参加校数が多い場合等、掲載可能面数が減ることがあるので、優先的に載せたい号や面を別紙に記入し、同封する。

3 コンクール参加締切

(1) 2019（令和元）年7月26日（金）必着

(2) 参加料 4,600円（写植、手書き・ワープロの両部門とも同じ。下記の銀行口座へ振り込みで送金する。）

(3) 新聞及び参加料送付先

新聞送付先 061-1105 北広島市西の里東3丁目3-3

北海道北広島西高等学校 全道高校新聞コンクール担当 三村 起一

TEL 011-375-2771 FAX 011-375-2661

参加料振込先 全道高校新聞コンクール

北海道北広島西高等学校長 金田 英司

北洋銀行西の里支店（店舗番号）338 普通預金（口座番号）3024604

注意1 学校名をカタカナ14文字以内（濁点含む）で学校名が特定できるように記入してください。（北海道は不要です）。

例 ○ キタヒロシマニシコウコウ × ホリカイトウキタヒロシマコウ

注意2 振込手数料は恐れ入りますが各校でご負担を願います。

4 入賞

(1) 写植、手書き・ワープロの両部門とも、総合賞、優秀賞、特別賞、奨励賞とする。

① 総合賞 総合賞はその部門での最高の賞である。三つの審査基準を総合して高い評価を得た新聞の中から、特に優れていると判断されるものに贈る。

② 優秀賞 三つの審査基準を総合して高い評価を得た新聞の中から、優秀と判断されるものに贈る。

③ 特別賞 下記の4項目について特に優れていると判断される新聞に贈る。この賞は①②を受賞した新聞に重複して贈ることを可とする。贈る際には、理由を明示する。

ア 特集

イ 論説

ウ コラム

エ その他

（「エ その他」については、審査委員会でその年度ごとに内容を検討する。）

④ 奨励賞 困難な状況の中で健闘している新聞部・局などに、奨励の意味で贈る。

(2) 入賞校 審査委員会で決定する。

5 審査発表・表彰

(1) 期 日 2019（令和元）年10月4日（金）

(2) 会 場 第63回全道高等学校新聞研究大会会場

（岩見沢市9条西4丁目1 岩見沢市民会館）

6 審査委員

学識経験者 2 名

北海道新聞社 4 名

高校新聞指導者 4 名

7 審査基準

(1) 写植部門（建頁、形式、字体は対象としない）

① 企画取材面（配点 100 点）

- ア 高校生の生活に根ざした企画であるか。
- イ 高校生独自の視点と、自由で豊かな発想が表現されているか。
- ウ 社会・地域・他の教育環境に対する視点があるか。
- エ 取材が多角的に行われているか。
- オ 取材の深化によって問題点の核心が浮き彫りにされているか。

② 編集技術面（配点 100 点）

- ア 記事の割付が適切かつ効果的か。
- イ 記事の重要度が配慮されているか。
- ウ 文章・文字・用語・署名などが適切か。
- エ 見出し・写真・図表等の扱いが適切かつ効果的か。

③ 制作態度面（配点 100 点）

- ア 記事に建設的な姿勢が貫かれているか。
- イ 学校生活を良くするための協力や建設的な批判がなされているか。
- ウ 生徒会活動に対する具体的な働きかけがなされているか。
- エ 一つ一つの記事について十分な量の取材がなされているか。
- オ ニュースに著しく主観を交えていないか。

(2) 手書き・ワープロ部門（建頁、形式、印刷、字体は対象としない）

① 企画取材面（配点 100 点）

- ア 高校生の生活に根ざした企画であるか。
- イ 高校生独自の視点と、自由で豊かな発想が表現されているか。
- ウ 社会・地域・他の教育環境に対する視点があるか。
- エ 取材が多角的・継続的に行われているか。
- オ 取材の深化によって問題点の核心が浮き彫りにされているか。

② 発行活動面（配点 100 点）

- ア 発行は定期的・継続的か。
- イ 速報性は生かされているか。
- ウ 部門の特性を生かした創造的かつ効果的なレイアウトがなされているか。
- エ 文章・文字・用語・署名などが適切か。

③ 制作態度面（配点100点）

- ア 記事に建設的な姿勢が貫かれているか。
- イ 一つの問題を継続して追究しているか。
- ウ 学校生活を良くするための協力や建設的な批判がなされているか。
- エ 生徒会活動に対する具体的な働きかけがなされているか。
- オ ニュースに著しく主観を交えていないか。

※ その他

- (1) 今年度も「北海道高等学校新聞部・局活動の概況」をまとめます。新聞コンクールに参加、不参加にかかわらず、HPからダウンロードした用紙に黒インクで顧問が記入し、7月26日（金）までにコンクール担当校（北広島西高校）へご送付ください。
- (2) 審査に関するお問い合わせはコンクール担当校（北広島西高校・三村 起一）
TEL 011-375-2771 mimura-kiichi443300@hokkaido-c.ed.jp
までお願いします。

2019（令和元）年度 全道高等学校新聞コンクール審査員名

・学識経験者（2名）

北海道大学大学院	教	授	浅川	和幸
北海学園大学	教	授	田中	綾

・北海道新聞社（4名）

・高校新聞指導者（4名）

北海道札幌西高等学校	教	諭	秋田	隆之
北海道札幌国際情報高等学校	教	諭	仲尾	光康
北海道小樽桜陽高等学校	教	諭	菅原	淳
北海道芽室高等学校	教	諭	石森	由香利